

### 幾何学 I 3. 多様体間の写像とその微分

可微分多様体  $M, N$  の次元をそれぞれ  $m, n$  として,  $M$  から  $N$  への  $C^\infty$  級写像  $f$  を考える.  $M$  の点  $p$  について,  $f(p) = q \in N$  とおく. 点  $q$  の近傍で定義された  $C^\infty$  級関数  $h$  をとる.  $M$  の  $p$  における接空間  $T_p M$  の要素  $\theta$  に対して,  $f_*\theta \in T_q N$  を

$$f_*\theta(h) = \theta(h \circ f)$$

で定める. この対応により定まる  $T_p M$  から  $T_q N$  への線形写像を

$$(df)_p : T_p M \rightarrow T_q N$$

で表し, 写像  $f$  の  $p$  における微分とよぶ.

$M$  の  $C^\infty$  曲線,  $\gamma : (-\epsilon, \epsilon) \rightarrow M$  で  $\gamma(0) = p$  となるものが与えられたとき, 方向微分  $X_\gamma$  は, 接空間  $T_p M$  の要素とみなされる. 微分  $(df)_p$  は, 方向微分に関して,

$$(df)_p(X_\gamma) = X_{f \circ \gamma}$$

を満たす.

点  $p$  のまわりで, 局所座標系  $(x_1, \dots, x_m)$ , 点  $q$  のまわりで, 局所座標系  $(y_1, \dots, y_n)$  をとる. 写像の合成  $y_j \circ f$  を  $f_j, 1 \leq j \leq n$  とおいて,  $x_1, \dots, x_m$  の関数とみなすと, 微分  $(df)_p$  は, 接空間の基底に関して

$$(df)_p \left( \frac{\partial}{\partial x_i} \right)_p = \sum_{j=1}^n \frac{\partial f_j}{\partial x_i}(p) \left( \frac{\partial}{\partial y_j} \right)_q$$

と表すことができる.

線形写像  $(df)_p : T_p M \rightarrow T_q N$  のランクを, 写像  $f : M \rightarrow N$  の点  $p$  におけるランクとよぶ. 可微分多様体  $M, M', M''$  について,  $C^\infty$  級写像  $f : M \rightarrow M', g : M' \rightarrow M''$  が与えられていて,  $f(p) = q, g(q) = r$  とする. 写像の合成の微分について

$$d(g \circ f)_p = (dg)_q \circ (df)_p : T_p M \rightarrow T_r M''$$

が成立する. これを用いると,  $f : M \rightarrow N$  が微分同相のとき,  $(df)_p$  は線形同型となり, とくに, 次元は  $m = n$  を満たすことが分かる.